

報道関係各位

株式会社 JBP ジャパンブルーカーボンプロジェクト

**株式会社 JBP ジャパンブルーカーボンプロジェクトが株式会社大木工藝と  
藻場再生活動及びブルーカーボン事業の領域で業務提携**

株式会社 JBP ジャパンブルーカーボンプロジェクト（代表取締役 吉川 京二、以下 JBP は廃棄物の炭化技術に定評のある株式会社大木工藝（代表取締役 大木 武彦）と業務提携の契約を締結しました。

両社は今後、JBP が取り組みを推進する藻場再生の活動地域で、大木工藝の炭化技術、製品の実用化を目指し、藻場再生活動の強化を図ります。

JBP は、2022 年より釧路西港にて、北海道開発局、釧路市の協力を得て天然コンブ漁で行われている雑海藻駆除の手法等を使ったブルーカーボンの実証実験を継続、2023 年に同じく釧路西港にてパートナー企業で地元企業の釧路ガスと「昆布の森づくり」を発表し、今冬から森づくりを開始します。今後各地で藻場再生活動の拡大を計画中です。

大木工藝は、深刻化する廃棄プラスチック拡散の問題を解決するためプラスチックを自然物に戻す唯一の方法である「炭化」を世界で初めて成功させた技術を持つ企業です。廃棄プラスチックを始めとし、毎日企業や家庭から大量に排出される有機系廃棄物を炭化し、有効利用します。このたび、大木工藝は下水汚泥を炭化した下水汚泥炭と鉄鋼スラグを合わせることで生成したハイブリッド炭漁礁の技術、製品化を日本/世界で初めて確立しました。この漁礁は、海草・海藻の成長に必要な栄養塩（腐植酸鉄）を海中で長期に渡り供給し、それらを海草・海藻が吸収することで海草海藻の光合成が活性化され海草・海藻の繁茂を促し、結果として地球温暖化の原因の CO2 吸収につながります。

JBP はこのハイブリッド炭®漁礁「TRICLE（トリクル）」を日本/世界で初めて藻場再生に活用することで、ブルーカーボンの創出も促進させることができ、また、大木工藝はハイブリッド炭®漁礁の実証実験の場を探していたため、両者の思いが一致し、今回の業務提携に至りました。今後、JBP は大木工藝の炭化技術と炭製品を活用することで、藻場再生活動をさらに強化していく所存です。

<株式会社大木工藝 概要>

会社名：株式会社大木工藝

本社所在地：滋賀県大津市中野三丁目 4 番 13 号

代表者：大木 武彦

事業内容：廃棄プラスチックの炭化と有効利用、進化型活性炭、分子篩炭、PFAS 回収無害化炭、燃料炭、純度の高い超高密度炭素など炭化技術をコアとした製品の研究開発と製造販売

「問い合わせ先」

株式会社 JBP ジャパンブルーカーボンプロジェクト <https://japan-bluecarbon.com/>

担当者： 加唐（かから）

メールアドレス：m57116tk@gmail.com

電話番号： 090-9816-7116

<参考>

## ハイブリッド炭<sup>®</sup>漁礁「TRICLE(トリクル)」イメージ



生物多様性の回復と脱炭素材  
「炭」「鉄」「藻」が三位一体の「トリクル」は  
ブルーカーボン生態系を育成します。

**TRICLE**  
For Blue Carbon Ecosystem

「炭化物」「スラグ鉄」「フルボ酸」の三つ (TRI) の要素をネーミングとシンボルに表現しました。「トリクル」は「TRI」と生態系の循環を表す「CYCLE」の合体語です。生体多様性の回復と脱炭素材です。

- 大きさは約 20~30cm の三角形型の漁礁を廃棄される麻袋に 5~6 個入れることで植食性魚貝類 (アイゴ・アワビ・ウニなど) などの新芽の食害を防ぎます。麻袋の目は植食性魚貝類が入れない程度に粗いため、光を通して光合成が可能です。また目が粗いことで、海藻が成長しても目の隙間を広げて大きくなり、成長を妨げません。

